

平成28年度第7回社会教育委員の会議

平成29年1月20日(金)

午前9時30分開会

開催日時	平成29年1月20日	開会 9時30分 閉会 11時00分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室		
出席委員	副 議 長 柴田彩千子 委 員 石田 静子 委 員 城 瑞枝 委 員 小山田佳代	委 員 佐野 郁蔵 委 員 原田 隆司	
説明のため出席した者の職氏名	生涯学習課長 石原 弘一		
事務局	生涯学習係長 小堀久美子 生涯学習係主事 小佐野七香		
傍聴者人数	1名		

日程	議 題	
第1	協 議 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 会議録の承認について (2) 生涯学習センター機能について (3) 第2次小金井市生涯学習推進計画の進捗状況調査について (4) 第3次小金井市生涯学習推進計画の評価について (5) その他 <ul style="list-style-type: none"> ①第58回社会教育研究大会千葉大会・第47回関東甲信越静社会教育研究大会（報告） ②平成28年度都市社連協交流大会・社会教育委員研修会（意見・感想等） ③その他
第2	報 告 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 平成28年度成人の日記念行事の開催報告について (2) 小金井市スポーツ推進計画（案）について (3) その他

柴田副議長

皆さん、おはようございます。

今年度、第7回社会教育委員の会議を始めさせていただきます。

本日は、議長の原嶋さんが体調不良のため欠席されますので、私が議長をかわって務めさせていただきたいと思います。不慣れですけれども、よろしく願いいたします。

それでは、議題のレジュメをごらんください。

最初に資料の確認を事務局からお願いいたします。

石原生涯学習課長 では、事務局のほうから資料の確認をさせていただきます。

小堀生涯学習係長 それでは済みません、事務局からです。

欠席のご連絡をいただいているのは、原嶋議長と長坂委員になっております。

資料の確認になりますけれども、順番に、社会教育委員の会議会議録（第4回、第5回分）。こちらには書いてありませんが、生涯学習情報コーナーについて、狭山市の資料が1部。第2次小金井市生涯学習推進計画の進捗状況調査（平成27年度分）が1部。小金井市スポーツ推進計画（案）に対する意見募集が1部。平成28年度版 小金井の教育。とうきょうの地域教No.125、No.126、図書館だより 第37号。小金井市の図書館平成27年度版。月刊こうみんかん No.463、No.464、No.465。花みずき。

それから、少し前になりますが、9月に研修に行ったときの、小平二中の資料を1枚だけお渡しさせていただいています。あと、こちらには書かれていませんが、第29回多摩郷土誌フェアの案内、第42回東京都遺跡調査・研究発表会、第22回ウオーキングフェスタ東京ツーデーマーチの案内があります。

以上です。

柴田副議長

ありがとうございました。

石原生涯学習課長 今日、市議会の委員会がございまして、部長と図書館長と公民館長はそちらのほうの対応で欠席させていただいてございますので、よろしく願いします。

柴田副議長 では、1の議題に入らせていただきたいと思います。

 (1) 会議録の承認についてです。

 お手元に2部、会議録があるかと思います。こちら、お目通しいただきまして、ご意見などありましたらよろしくお願ひします。

石田委員 これってメールでいただいたものですよ。

小堀生涯学習係長 そうですね。皆さんに一度見ていただいたものを校正して、お配りしております。

柴田副議長 では、よろしいでしょうか。

 (「はい」の声あり)

柴田副議長 では、承認していただきましたので、次に進みたいと思います。

 (2) 生涯学習センター機能についてです。こちらにつきましては、狭山の事例が資料としてございますので、まずはこちらをごらんください。

 こちらについてお願いいたします。

石原生涯学習課長 前回の会議でも、視察の行き先として、少しご議論いただいたと思いますけれども、社会教育委員さんからの提言にもございました生涯学習センター、箱物ということには限らず、生涯学習の機能をどこかに持つべきというようなご提言をいただいてございまして、なかなか、事務局のほうでも、今のところ、7階に生涯学習の情報コーナーということで、チラシ入れを置いたりとか、その程度までしかできていないというのが現状でございまして、今後、さらに機能を充実させ、生涯学習センター機能と呼べるようなものをつくり上げていくために、どのようなことが必要かということでご議論いただきたいと思います。存じます。

 ただ、本日、原嶋議長もご欠席でございますので、皆様がお持ちの、この前、ご議論いただいたものに加えて、新たにこんな情報も得たよというようなものがございましたら、ご紹介いただければと存じます。

 以上です。

柴田副議長

ありがとうございます。

生涯学習センターの機能ということで、情報を提供をしたり、コーディネートをするようなセンター機能を持たせるものを設定していくかということについて、前回の社会教育委員の会議で議論していったんですけれども、さまざまな事例の視察というようなことも前回提案されておりましたが、それにあわせて、皆様から何か情報提供やご意見などございましたらお願いいたします。

石原生涯学習課長

過去にいただいた提言、すべて載せているわけではございませんけれども、こちらの3次の生涯学習推進計画の9ページの下のところにも、いつごろ出されたとか、背景みたいなものは少し触れさせていただいておりますので、新しく委員になられた方など、そういったところもご参考に拝見していただければと思います。

柴田副議長

狭山の事例は、NPO法人が事業を委託されて運営しているというような形態ですか。

石原生涯学習課長

私もこれから、皆さんでご視察に行く前に、ちょっと事務局でも実際見に行ってみようというというような話はしているところなんですけれども、まだ実際に誰も足を運んだ者がおりませんので、ちょっと詳細はわからないんですけれども、今、柴田副議長が言われたような、この資料を見る限り、そういった委託の、特に指定管理とかそこまでは書かれてございませんので、委託契約みたいな形でやられているのではないかなというふうには、この資料から読み取れますけれども。

大体この資料ぐらいのところまでしか把握できていない状況です。

柴田副議長

ありがとうございました。

原田委員

これは、そうすると、今年の現地研修というか、その一つの候補ということですね。

石原生涯学習課長

そうですね。はい。

原田委員 これを拝見して、NPO法人の市民の会と一緒にやっているということと、市民交流センターにその場所があるということに、ひょっと目が行ったのですけれどもね。これにヒントを得るとすると、今、貫井北でなかなか活発にやっているNPO法人があります。ああいうところを一つ核にして、センター機能を持つという方法もあるのかなという連想ですね。

それから、市民交流センター、せっかく駅前にあるんですが、何かいい場所は、学生の自習場所になっているみたい。ああいう使われ方でいいのだろうかという感想をいつも持っているのですけれども、ああいう場所にこういう情報コーナーがあるといいなというようにも思いました。

いずれにしても、先進的にやっているところをぜひ見てみたいというふうに思います。

柴田副議長 ありがとうございます。

では、今年の研修候補先の一つというようなご意見をいただきましたので、よろしく願いいたします。

ほかにご意見などございましたら、お願いします。

よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

柴田副議長 では、この件は、次回も継続審議となると思いますので、何か情報などございましたら、また次回でもご発言いただければと思います。よろしく願いいたします。

小堀生涯学習係長 なかなか全体でというのは難しいので、できれば小委員会を開催して、その中で、なるべく資料とかを集計して、それをまたこちらの会議に諮ってという形をとれたらとは思っております。

柴田副議長 では、小委員会でまずは話し合いを進めていって、こちらの会議と連携していきながら進めるという形でよろしく願いいたします。

では、次ですが、議題の(3)第2次小金井市生涯学習推進計画

の進捗状況調査についてです。

こちら、資料がございますのでごらんください。

こちらについてお願いいたします。

小堀生涯学習係長 では、遅くなってしまいましたけれども、平成27年度分の、27年度ですので第2次小金井市生涯学習推進計画になりまして、進捗状況調査をまとめました。こちらは例年と同じやり方になりまして、担当する事業を持っている課に、それぞれ、平成27年度、どういったことをしたかということ、具体的な成果、あとは問題点、課題等を上げていただきまして、今後どのような方向性で進んでいくかというところを、各担当部署に回答していただいたものをまとめております。

柴田副議長 ありがとうございます。

では、第2次小金井市生涯学習推進計画の進捗状況調査につきまして、ご意見がありましたらお願いいたします。

原田委員 これ、表題が進捗状況調査となっておりますが、内容を拝見すると、27年度分ですから、結果と捉えてよろしいんですか。それとも、まだこの後、最終結果が出るのでしょうか。

小堀生涯学習係長 いえ、これが最終です。

原田委員 これが最終結果ですか。

石原生涯学習課長 第2次の計画の年度が、25年度までが、冊子上は計画期間となっていたものが、3次ができるまでということ。

原田委員 延長しましたよね。

石原生涯学習課長 27年度まで延長しましたので、これが第2次の最終的な施策の実施状況と捉えていただいて結構でございます。

原田委員 わかりました。

柴田副議長 済みません。事業の活性度評価の数値なんですけれども、こちらは、その担当部局で評価をつけているということでしょうか。

石原生涯学習課長 はい、そうです。担当課の自己点検評価でございます。

柴田副議長 1番と2番は、時期も継続実施となるような仕組みになっているのでしょうか。

石原生涯学習課長 1番と2番というのは。

柴田副議長 十分成果があったとか、ある程度の成果があったというような評価。

石原生涯学習課長 その今後の方向性のところは、一番右端のところ、必ずしも、達成度で十分な成果があったことをもって、当初の目的を達して終了というようなケースもあるかと思しますので、一番右側の方向性のところが、今後、継続するのか、拡充するのか、終了するのかという、そういった評価項目になります。

石田委員 今後の方向性で、1番が持続ですよ。継続ですよ。で、3番が推進ですよ。継続していただくであって、推進というのは、より何かをプラスしていくという評価をしているんですかね。継続というのは続けていくということですよ。推進ということは、推し進めていくということは、何かをプラスしていくという評価をしているのでしょうか。

この評価のことなんですけれども、例えば、18分の5のところ、58ですか。59ですか。その評価が、係の人はある程度の成果があったとしているけれども、皆さんは4番の検討になっているんですね。検討ということは、やめる可能性もあるということですよ。

ということは、そういう評価で来ていて、検討するとき、ちょっと漢字の意味って本当にわからないんですが、推進と言ったら、何か事業をプラスしてよりよく進めましょうということだと思ふんですけれども、では、予算を追加しているのかということが。

これによって、推進だったら予算増とか、継続だったら予算はそ

のままですよとか、そこまで連係してわかるといいなという私の気持ちです。

検討してやめてしまったら、やめる前にいろいろな意見を聞くことがあるのか。係の人はこれで満足しているのに、検討していくということは、市民に諮って検討してやめる方向性もあるのか、もっと進めるのかという、この言葉のもう一歩先が欲しいという気がするんですが。済みません。

柴田副議長 事務局、お願いします。

石原生涯学習課長 平成25年度に、この第2次の計画を延伸するときに、その平成25年度までの集約表をつくられているようで、今回つけていないですし、私が異動する前に前任者がつくっていったもので、かなり分厚く、これと似たようなものなんですけれども、もっと厚い資料をつくっていたというふうに記憶しています。

そのときに示した継続・拡充・推進というところの、説明じゃないですけども、皆さんに感覚的にわかっていただくために、矢印をつけていましたね。

石田委員 ええ、覚えています。

石原生涯学習課長 継続というものは、水平の矢印がついているので、全く前年と何ら変わらずに、同じこと、同じ規模、同じ力の入れ具合で行っていくというのが継続で、それから、拡充というのは、これが多分、一番上に角度が急な、急上昇のカーブで矢印をつけていて、きっと、予算的にも事業規模的にも充実させていくというような、そういった感覚を示すものとして拡充という矢印がついていて、それで、推進というのは、拡充ほどではないけれども、継続よりは上向きの矢印がついていくということで、あまり予算的なところは充実を図っていないのかもしれないですけども、一定の力の入れ方とか、より工夫をして、去年よりもよりよいものとか、より多く参加していただけるようにというようなことをやっていくというのが推進という位置づけだったのかなと思って。

検討というところは、やめるというのも検討の結果なんでしょうけれども、また違った形に、全くガラッと、拡充でも推進でもなく、

制度を変えたり、目的を変えたりとかする必要はあるんじゃないかというものが検討で、そのときに市民の意見を聞くかどうかというのは、その事業の規模とか性質とかに応じてかなと思っていて、生涯学習の事業ですと、いろいろ市民の協力を得ながら、ボランティアの方をお願いしながらやっているような事業などもあると思いますので、そういったときには、そういった関係者の話を聞き、あと、利用者に影響が大きなものについては、利用者側の市民の意見なども聞いて、新たな制度にしていったり、やめていったりとか、そういう意味合いであったと思っています。

石田委員 済みません。思い出しました。ありがとうございます。

柴田副議長 ほかに御意見がございましたら、お願いします。

では、少しよろしいでしょうか。

5ページ目の、例えば、No.60という事業なんですけれども、サークルの案内というんですか、生涯学習に関連するところで、生涯学習情報の市民への提供ということですが、これ、推進というふうになっていますが、これを先ほどの議題の2番の生涯学習センター機能というようなところと関連させて、例えばこれからこの小委員会を考えていくというような方向性ということで推進していくというような意味もあるんでしょうか。この推進というのは。

石原生涯学習課長 そうですね。おっしゃるとおり、やはりこの部分で充実させていかなければならない部分であるので、柴田副議長がおっしゃられたように、小委員会で検討していくときに、こういった部分を念頭にとりながら、そういった形でここからいかに広げていくかというところでご議論いただければいいかなとは思っています。

それと、あと、私どももできることから始めようということで考えていて、例えば登録団体さんなど、個人情報なども入っているんで、今まではカウンターの中に置いたりとかしてコピーできないようにしているんですけど、出していいメールアドレスであるとか、ファクシミリ番号であるとか、そういうものを確認しながら、出せるものは出して、複写というのはなかなか、代表の方も毎年変わったりとか、氏名なども変わったりするので、複写するという事はなじまないんですけど、誰でも手に

取って、見て、それで自分が必要なところは書き写していただけるように、生涯学習の情報コーナーのところに、そういった登録団体の情報なども置くようには、27年度中にしたりもしていますので、そういったところから、ただ継続しているのではなくて、推進しているというような書き方をさせていただきました。

柴田副議長

わかりました。ありがとうございます。

ほかにご意見などがございましたら、お願いします。

特に今なければ、またメールなどでお伝えしていただくということでもよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

柴田副議長

では、次に議題の(4)番に進めたいと思います。第3次小金井市生涯学習推進計画の評価についてということです。

こちらの冊子ですね。資料はございませんので、この冊子をごらんください。

では、事務局のほうからお願いします。

石原生涯学習課長

50ページに、第3次の評価のチャート図、図表が示されておりまして、第3次の計画の施策については、こういった進捗状況調査というのを継続してやっていくというような評価方法も考えられますし、あるいは、第3次の特徴として、重点的に行う重点プロジェクトというようなことで、施策を、過去こういうふうにして並列的に並べた形ではなく、幾つか上位計画などでも取り上げられている施策を中心にピックアップして、重点プロジェクトの施策も出していますので、重点プロジェクトについてはもう少し掘り下げた評価をしていって、施策については、数値というか、実際どのぐらい事業が行われたとか、そういったことを拾う程度にとどめるであるとか、評価手法については、計画にそこまで詳しくは書き込んでいないので、幾つか考えられる手法があるかなというふうに思っています。今、第2次の評価のほうもお願いしたところで、ちょっと関連づけして、第3次の評価についてもご意見をいただきたいと思っています。

ちなみに、他の計画の例で、例えば、のびゆくこどもプランとい

う、子供施策を扱っている計画があるんですけども、そういった中では、同じような進捗状況調査というのを、こういうのをつくっているんですけども、これをページごとに会議3回ぐらい使って質疑をしたりして、意見を出したりしているというような委員会もございます。ただ、そこは、毎月ほとんど会議が行われているので、この社会教育委員の会議の回数の中で、こういった評価手法が効率的で効果があるかというところでご意見を賜ればと思います。

以上です。

柴田副議長

ありがとうございました。

では、皆様、ご意見をお願いいたします。

小山田委員

今、石原課長からお話がありましたが、やはり限られた時間の中で評価をしていくというところで行きますと、その重点プロジェクトというのをつくったので、そのときの策定のほうにも関わらせていただいていたので、やはりこの重点プロジェクトがどのような形で進められているか、推進されているかというようなところを、やはり重点的に評価していただくという方向が好ましいかと個人的には思いました。

柴田副議長

ありがとうございます。

重点プロジェクトを中心に評価を進めていったほうがよいという意見ですけども、ほかの委員さん、いかがでしょうか。

原田委員

私も同感ですね。この委員会で、この重点プロジェクトについては、かなり分厚い議論をしたという記憶がありますので、ぜひこれを軸に評価をしていったらいいと私も思います。

柴田副議長

ありがとうございました。

では、その方向性で評価の方法を進めていきたいということでもよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

柴田副議長

ありがとうございます。

石原生涯学習課長 ちょっと事務局のほうでも、突っ込んで評価する中で、こういった形で皆様方にお見せするのがいいのか。フォーマットなどもほかの施策などで使っている評価表みたいなものも取り寄せて、それも、生涯学習センター機能以外に議論するお時間があれば、そういったところも、こういった評価の方法はどうかというようなところも、小委員会の中で一緒に考えさせていただければと思います。

柴田副議長 ありがとうございます。

では、次に進めたいと思います。(5) その他です。①ですが、第58回社会教育研究大会千葉大会・第47回関東甲信越静社会教育研究大会の報告を佐野委員よろしく願いいたします。

佐野委員 私、レポートを書いて提出して、皆さんに今日は配付できるのかなと思ったら、この中に入っていないので、思い出さないといけないのかなという気がしますがけれども。

小堀生涯学習係長 お配りしていいものかどうかというところがあったので、済みません。今日、1部だけ持ってきたんですけども、では、コピーして皆さんにお渡しします。

佐野委員 皆さんに一応お渡しして、それを読んでもらえればいいのではないかなと思ったんですけども。

柴田副議長 ありがとうございます。

それでは、今、佐野委員が作成してくださった資料を配付しますので、少々お待ちください。

佐野委員 何かありましたら言っていただければ。

柴田副議長 では、その間に、②に進めたいと思います。平成28年度都市社連協の交流大会・社会教育委員研修会につきまして、出席者の方、ご意見、ご感想などお願いいたします。

城委員と原田委員お願いします。

原田委員

交流大会の後半の研修会で、その感想を少し申し上げます。

立川にあります、極地研究所の所長さんの講演ですね。2時間ぐらいたっぷりとお話をいただきました。

私とほとんど同年代の方のお話だったので、興味深く聞いたんですけども、小学生のころに南極探検が始まって、学校で募金をしたりして夢を膨らませたというところから始まって、今日の研究に至るお話だったんですが、50年前ぐらいの日本というのは、科学技術とか未知のものに対する夢というのがすごく豊かだったんだなということ思い出しました。

一方で、現在はどうかというのを講演を聞きながら思っていて、講師の先生に私は質問したんですが、今、子供たちはあまり夢がなくて、後継者づくりが大変でしょうと聞いたら、いや、そうでもないんだと、この分野は必ずこういうことに興味を持つ人がいるから大丈夫なんですというふうに力強くおっしゃっていましたけれどもね。

ただ、やはり、すぐには役に立たないんだけど、知らないことを知りたい、行ったことがないところに行ってみたいという気持ちを、どうやって子供たちの中で育むかというのが大事だなということ、この研修会の講演を聞いて感じました。

以上です。

柴田副議長

ありがとうございます。

では城委員お願いいたします。

城委員

私も南極のお話があったときに、すごい興味がわきまして、そしてそこに南極の氷も持ってきていらしたんですね。それで、そうなんだということを私も今まで知らなかったの、子供たちに、やはり、全世界は大きいよということとか、それに向かって、今すぐ役に立たなくても、将来的に何か希望を持たせるようなものがあるなというのを私もすごく感じまして、こういうお話を聞くのもいいなというのをすごい感じました。

小金井市の子供たちも、そういう大きなことに加担できるようなことがあればいいなというのを感じました。

柴田副議長

ありがとうございます。

極地研究所の所長さんのお話ということでしたので、どういう話なのかというふうに、私は出席できなかったので興味を持っていたんですけども、今、原田委員と城委員からお話をいただきまして、子供に目標とか大きな夢を持たせることの大切さとか楽しさみたいなのが伝わってきたような気がします。

では、その他ですけれども、こちらに記載されていませんが、ブロック研修のご報告もあわせてお願いしたいと思います。武蔵野プレイスでの。

では、こちらは、小山田委員お願いします。

石田委員 私も出席しました。

柴田副議長 では、石田委員お願いします。

石田委員 武蔵野プレイスを私は気にしながら横を通ってもいたんですが、中を詳しく見たのは初めてで、すごく興味深くて、施設の大きさと、それから充実しているなどと思って。

小金井にも欲しいなという反面、もう少し、こういうところが欲しいとか、自由に使える部屋とか、申し込めばできるとか。

それから、そのルームを1年間契約できて、普通の事務所を借りるより安い金額で借りられるような部屋もありまして、そうすると、一般の人たちもそれを利用しているようなところもあって。

ただ、小金井にはもう少し、会員が自由に使える多目的なところとか、貸し事務所ではないけれども、今はなくなってしまったんですが、社会教育、社教にロッカーだけありまして、そのロッカーを契約して借りると、その部屋が空いていれば借りられるというような部屋があったんですね。今はないんですが、小金井がもしこういうのをつくったら、取り入れてほしいなと思いながら。

ただ、とても親子連れが多かったですね。そして、小さい子を乳母車に乗せた人たちも結構いて、食事ができるコーナーもあったし、いろいろあったしということで、利用者はとても多いなど。

ですから、小金井で図書館とかそういうのをつくるときに、こういうふうにご利用者が多いような立地条件、そしてまた中の内容、そういうのはもっと検討して、私も図書館にこの委員会から行かせていただいていますので、そういう意見を図書館に言うこともあるん

ですが、もっと図書館が欲しいという声を、大きい声でいきたいということを感じながら見学してきました。

私のためにはなったなと思っております。

柴田副議長 ありがとうございました。

原田委員 私も見学してびっくりしたんですけれども、いいですか。

石田委員 どうぞ。

原田委員 図書館って、普通は静かにしてなきゃいけない、それから物を食べちゃいけないとかね。大声を出しちゃいけないとかという常識がありますよね。それ、全部覆しているわけですね。食べながら読める。それから、子供たちは、しゃべりながら本を読むコーナーがあるとかね。それから、音楽をする部屋もあったかな。それから、独占しちゃいけないというのも常識だけれども、独占できるということで、常識を覆す図書館だなと思ってびっくりしましたね。

柴田副議長 お子さんとか若者の居場所というところに力を。

原田委員 そうですね。だから集まるんですね。

柴田副議長 ありがとうございます。
ほかに何かご感想など述べていただける方、いらっしゃいますか。
よろしくをお願いします。

城委員 私もすごくいいなと思ったので、即、会員になって、もう借りに行行って、何回か行っているんですけれども、いつもすごい人が多いんですね。小金井の図書館に行ったときよりも、本の並べ方もちゃんと同じジャンルでも年代に応じた置き方をしているんですよ。
例えば、私、済みません、個人的であれなんですけれども、あさのあつこをすごく好きなので読むんですけれども、それは、ちゃんと子供のコーナーにもあり、それから大人のコーナーには、子供のコーナーじゃないところのあさのあつこの書いている本を別に置いてあるんですね。

普通、あさのあつこだったら、あさのあつこの本をいっぱい羅列してあるんですけれども、中高校生向きのところと大人向きのところがあるので、子供を連れていったときにとてもわかりやすいかなというのがあって、私もすぐ、親戚が武蔵野市にいたので、その人に、すごくいいから、あそこで勉強するのもいいし、本を探すのもすごく探しやすいわよということを勧めたんですけれども、それから行っているらしいんですが、小金井にも、もうちょっと図書館の使いやすい使い方というのがあればいいなというのをすごく感じました。

食べるころや、そういうところは、あれば、より1日いられるんですけれども、それよりも、本の並べ方、それから学生や子供たちがすごく行きやすいやり方というのがいいなというのをすごく感じました。

柴田副議長

ありがとうございます。

子供のコーナーと大人のコーナーが分かれていないところが異色というふうに、今。

城委員

そうですね。

柴田副議長

いいですね、それも。学童期の子供を図書館に連れていったときには、そんなに親御さんがつきっきりでいることもないので、子供のコーナーに大人の読む本もあれば、同じスペースに、子供が好きな本を読んでいる間はいるというメリットもあるということですね。

城委員

はい。

佐野委員

私、その研修会には参加できなかったんですけれども、青少年健全育成で、あそこへ見学に行きたいと思って、視察をちょっと私、やったんですね。そのときに、あのロケーションなんですけれども、建物も確かに中は充実していますけれども、あその前に広場があって、だから、何ていうんですか、小金井の場合だと、そういうスペース的なものがちょっと乏しいので、そういうスペースが取れないというのがあるのかもしれないけれども、そういう点で、ゆったり、本当に安心してそこが使えるという、そういう一つのロケー

ションができ上がっているのです、いろいろなところから視察に見えたりしているんじゃないかなというふうには思いました。

それで、私が上から下まで案内していただいた方が、小金井在住の方なんです。ちょっとお名前を忘れちゃったんですけども、小金井から来ましたと言ったら、私、小金井に住んでいるんですよって言われたんですけども、何かの縁にお話を聞かせていただいたらいいのではないかなとちょっと思いました。

小山田さんの講演が聞けなくて、申しわけなかったというふうに思います。

柴田副議長 ありがとうございました。

小山田委員 じゃあ、私も。

施設のほうは、本当にすばらしい、充実した施設で、地下に青少年の居場所という、自由にいつでも来ていられるという場所があるというのが、一番売りというか、なかなかほかの市、ほかにはないかなと思ひまして、本当に自由に座って、何でもしゃべったり、いろいろなことができるというスペースがあるのはいいなと思ひました。

小金井のほうも、先ほど原田委員もおっしゃいましたが、交流センターのところは、やはり皆さん勉強をされていて、武蔵野プレイスはそれが、勉強するスペースみたいながあるので、やはりみんな静かに勉強するスペースを若者たちも求めているんだなというのはすごく思ひました。

私の発表のほうは、北町公民館と図書館のその後の様子ということでお話をさせていただいて、利用者も本当に増えているし、いろいろなサービスが、やはり、市民のNPOがやっているからこそその視点で、結構いろいろな企画をやったりしているというお話をさせていただいて、青少年コーナーも、それこそ武蔵野プレイスほどではないんですけども、一応ちょっとしたコーナーということも、北町公民館のほうは力を入れて、そこもやはり、皆さん勉強に来ていたりするという感じで、夏休みとかは朝から場所を取りに来て、本当に勉強されているので、そういうスペースがもっと小金井にもあればいいのかなというのは思ひました。

あとは、ほかの市のほうの発表もいろいろ充実しておりまして、

それぞれの市のリソースを使って、どんなことをやっているかみたいなお話だったんですけれども、本当に各市それぞれ特色があって、皆さん、すごいパワーポイントですばらしい発表をされているところもあれば、いろいろだったんですけれども、中学生の居場所づくりを社会教育委員のほうでつくっていかうみたいなところもあつたりとか、あとは大がかりな市のいろいろなイベントとか、そういった企画のようなところとかにも、社会教育委員のほうもそういったいろいろな視点を持って見ているというお話もあったので、私どもも、今後、社会教育委員として、原嶋議長も前におっしゃっていただきましたけれども、何かこう、社会教育委員として今後どういう活動というか、何か市の課題を見つかったりとか、何かそういった動きみたいなようなことも、やはりできるといいのかなというのをちょっと思いました。

柴田副議長

ありがとうございます。

武蔵野プレイスのご報告をしていただいた方々、ありがとうございます。

最後に小山田委員がおっしゃったように、社会教育委員として小金井市にある課題。今、幾つか、若者の居場所づくりというようなお話をあげていただきましたが、こういうことに何か提言というか、実際に取り組むことがこれからできればというようなところだと思います。

③その他ですけれども、そのほかに何かご報告などある方、いらっしやいましたらお願いいたします。

石原生涯学習課長 佐野さんの報告書を配付させていただいたので、何か補足があつたりとか、お聞きしたいところがあれば。

柴田副議長

では、よろしく申し上げます。

佐野委員

一言だけいいですか。

柴田副議長

はい。申し上げます。

佐野委員

最後のほうに書いてありましたけれども、会長の挨拶の中に、地

方創生の時代ということをおっしゃっていたんですね。これが本当に、ここに書きましたけれども、要するに社会教育行政の出番なのではないか。本当にここに集約されるんだなど。

地方の方の発表は、本当に素晴らしいものがたくさんあるので、しっかりと学んでいかなければいけないのかなというふうに思いました。

こういうところに行くと、本当に自分たちというか、自分が知らないいろいろな方と意見交換ができるので、参加する意義がすごくあるないつも思います。

柴田副議長 ありがとうございました。

原田委員 少し詳しく教えてほしい。

佐野委員 詳しく。覚えているかな。

原田委員 高校生レストラン「まごの店」というのは、高校生がつくって高齢者に食べてもらうんですか。

佐野委員 そうですね。高齢者だけではなく。
実際に高校生が運営しているんですよ。

原田委員 運営して。料理をつくるのも高校生。

佐野委員 その前に、やはりそういう下地は確かつくってあげたと思うんですね。それを高校生が継続してやっているということだと思います。すごくアットホームないいあれだというふうに聞きましたね。

石原生涯学習課長 結構、地方創生とかで、いろいろな地方の高校の、例えば農業とか水産の高校などが、地元の食材とかそういうものを使って、土産品をつくったりメニューをつくったりとか、そういった活動をされている高校って、東京ではあまり聞かないかなと思いますけれども、地方はそういう話があるみたいですね。

原田委員 ちなみに、この「まごの店」はどこ地域ですか。

佐野委員 三重県だったと思います。

柴田副議長 コミュニティービジネスというか、まちおこしとか村おこしの発想で、若者が社会教育の場に入ってきているという事例で、興味深く思いました。

石原生涯学習課長 小山田さんがやられている、まちカフェでしたっけ。何カフェでしたっけ。

小山田委員 まちのカルチャーカフェですかね。

石原生涯学習課長 ああいう中でも、小金井のまちおこし協会などが、小金井の資源は教育だということで、今まで観光とかをやっていた公的なというか、公益団体が、小金井の教育力みたいなものを売りにして、多摩の地域でつながっていきみたいみたいなのも、小山田さんからご紹介されていたものも少し関係するところがあるかななんて思っています。

小山田委員 そうですね。

原田委員 学芸大の中にあるやつですか。

小山田委員 学芸大の中にあるんですね。

原田委員 ああ、なるほど。

柴田副議長 では、せっかくなので、小山田さんお願いします。

小山田委員 ではPRを。

今、石原課長もおっしゃっていただきましたけれども、地方創生ということで、小金井も地方創生の取り組みというのをやっていこうということで、ちょっと今、小金井の場合は、それが経済課と観光協会のほうにその話がおりておりまして、それで、まちおこしとか、経済活動も含めて、小金井にどういう特色がというところ

で、大規模なリーサスという大調査をした。それは国のほうでやっている調査があるらしいんですが、その結果、小金井は、教育に非常に関心がある方々が多い町であるということで、教育的な特性を持った、何かまちづくりというところができないかというような話が、実は今、まさに上がっているところで。

具体的に、今後、来年度から、行政の方や、それこそ学校の関係者だったり、企業の方、市民の方とか、いろいろな方々が集まって、定期的に話し合うような場をつくっていったらみたいなことを、今ちょうど考えて企画をしているようなところで、学芸大学と、私のほうで今関わっているNPOのこども未来研究所も一緒に話をしていきたいと思いますというようなことになっていまして、それで話し合いをしているんですが。

その中では、このまちのカルチャーカフェというのも、学芸大学の中にあるカフェで、教育という、そんなに教育だけの話はなく広い感じで教育的なエッセンスみたいなことで、平らにいろいろな話ができればというようなことで、月1回、毎回いろいろなテーマを考えて、大学の先生とゲストの方に来ていただいたりというような感じで話し合ったりしているというようなことも始めているということで、これも今後も毎月1回やる予定ですので、ちょっと教育をおもしろいところから見てみたいということでやりますので、またよろしければぜひお越しいただけたらと思います。

地方創生が今、本当に、教育的特性のほうに来ているので、ちょっと来年度からそういう話し合いの場にも、また皆さんも参加していただけるようなこともあると思うので、そういうことはまた情報として、社会教育委員の皆さんにもお伝えして、ぜひ参加していただいたりして、教育といっても本当に広いんですけれども、やはり今出ているのは、乳幼児から高齢者までの、本当に生涯を通した教育ということで、この小金井が豊かなまちづくりをできたらいいんじゃないかと。

実際、皆さん、教育に関心の高い方が特化して多いというのも、データとして本当に出てきているというところがあるので、そのあたりでまた社会教育委員の皆様にも、何かお力添えをいただいて、何かいろいろと考えていけたらと思いますので、またよろしく願いいたします。

柴田副議長

ありがとうございました。

今、お手元に資料を配っていただいたんですけども、これ、学芸大の中の図書館のノートカフェという1階のスペースでの講座のご紹介ということです。

原田委員

これ、どういう人たちが参加されますか。この時間だと。

小山田委員

やはり、お子様が小さい方はなかなか厳しいような時間帯なので、仕事をされている方で仕事帰りに寄っていただいたりとか、企業にお勤めの方もいらっしゃるし、地域でいろいろな活動をされている、市民活動をされている方ですとか、あと学生も割と参加してくれたりしまして、いろいろな立場の方が。

また、それこそ、テーマによって集まる方が違うので、それはそれでまたおもしろいですね。

原田委員

学生と社会人の割合はどれぐらい。半々ぐらいですか。

小山田委員

いや、学生は少ないです。学生は今のところ1割ぐらいで、それこそ、その回によって割と来るような、仕事づくりとか働くというようなテーマでやったときは、結構学生が来たりしてまして。

学生も、皆様と一緒に輪に入って一緒に話すという感じで話していますので。

原田委員

これ、時間設定がいいですよ。これ、昼間だと、高齢者ばかりになっちゃうでしょ。逆にこの時間だといろいろな世代が集まる。

小山田委員

そうですね。ただ、ちょっと子育て世代の方が、やはり参加しにくい時間なので、そのあたりもまたちょっと、時々スペシャルで土曜日とか日曜日とかのお昼にやれたらいいのかなとか、そうするとお子さんが小さい方も来てもらえるかとか、そんなこともまた考えたりしています。

柴田副議長

ありがとうございます。

昨日、学生とも話していたんですけども、宗教と教育と、しつけとか道徳の教科化というようなことにもつながっていて、すごく

おもしろいテーマなんだろうなというふうに思いましたけれども、やはり、子育て世代の方が参加できないのがちょっと残念かなと思いますね。

小山田委員 そうですね。時間帯も保育もちょっとないというような、場所もちょっとできない感じがするので、そこはちょっと課題として、また考えて対応したい。

柴田副議長 ありがとうございました。
そのほかに、情報提供などございましたらお願いいたします。
よろしいですか。
では、2の報告に移りたいと思います。
（1）平成28年度成人の日記念行事の開催報告についてです。
事務局、お願いいたします。

小堀生涯学習係長 社会教育委員の皆様にも、来賓として来ていただきましてありがとうございます。

平成28年度は、初めて2部制という形をとらせていただきまして、対象者数が1,207人だったんですけれども、参加者数が702人。割合でいうと58.2%の参加となりました。1部と2部、ほぼ同じぐらいの対象者数となりまして、参加人数もほぼ同じで359人と343人ということで、時間や配置等ありましたが、滞りなく式典が無事できたことをご報告させていただきます。

ありがとうございました。

柴田副議長 ありがとうございました。
では、（2）小金井市スポーツ推進計画の案についてです。こちらも引き続きよろしく申し上げます。

石原生涯学習課長 現在、1月の25日までの期間で、市内の施設、ホームページなどで、小金井市のスポーツ推進計画案の意見募集をしてございます。

こちらは、小金井市として初めてスポーツ推進計画というのを策定することにいたしまして、ことし1年かけて計画の策定委員会というのを設置いたしまして、各スポーツ団体さんですとか、介護団

体さん、それから障害者関係の方などの策定委員さんに意見をいただきながら案をつくってまいりました。

計画の主要なところとしては、5ページのところに、東京都自体は、都内のスポーツをする人を70%にというのを目標に、今、計画を進めているところでございますけれども、小金井市はちょっと計画の期間が短いというところで、平成32年度までに65%のスポーツする人の実施率を目指していきたいというふうなものを大きな目標とする計画として、今、意見を募集しているところでございます。

雑駁ですが、報告は以上です。

柴田副議長

ありがとうございました。

では、(3) その他ですが、何かございますでしょうか。

石田委員

成人式について、成人式の手伝いということでソロプチミストが関わらせていただいております。

そして、成人式に皆さん、女の人たち、ほとんど振り袖だったんですが、ショールを皆さんしてくるんですね。そしてショールがコートと同じだということがわからなくて、皆さん、ショールをつけた写真とかそういうものを見ているので、ずっとつけていなきゃいけないという感覚なんですね。だから、これはコートと同じなので、お席についたら取ってねということを会員が入ってくる女の子たち全員に言った。そうすると、舞台の上から見ていると、皆さんの様子が逆に見えます。そうすると、ショールをしている子が5、6名でした。あと、みんな胸元のきれいな襟元が見えて、こちらから見たときもきちんと絵になっていたのです。

そして、舞台に行ったら、司会をしている女の子が2人、ショールをまだ巻いたままなので、じゃあ誰が言いに行こうかと言ったら、ソロプチミストのたすきをかけているから、あなた行ってらっしゃいと城さんに言われて、これはコートと同じだから、司会をするときには外してねと言って説明すると、みんな、初めてそこでそういうものなんだということがわかるんです。

ですから、やはり、親たちが、着物を着ていたけれども、そういう教育を受けていない時代になってきたんだなど。おじいちゃん、おばあちゃんと生活している方も少なくなってきた。おじいちゃん、

おばあちゃんがいたら、多分、これは中に入ったら取りなさいよとか、歩き方はこうしなさいよと教えていたと思うんですけども、そういうことができていないので、着方を着せられたとおりに歩くので、本当にちょこちょこ、ちょこちょこというような歩き方をする。そうすると、後ろからトンと突かれたら転んでしまうんじゃないかというような、ハラハラするような感じでした。

なので、ちょっと端に振袖の新成人さんを引いて、ちょっとこういう歩き方をするといいのよって教えてあげると、うわーってみんな声を上げるんです。今まで自分が歩いていた歩き方が、教えられた途端にすっすっとお草履でも歩ける。

だから、そういう教育を、私たちがここで教えているだけでも、多少役に立ったのかなと思います。

男の子たちで袴がずらずらになったので、直してくださいって来た子もいるんですけども。

でも、まあ、毎年させていただいていて、やはりこれは必要なことかなと思いつつながら、楽しんでやらせていただいています。今年は30人から35、6人の子に、着物のずれを直したり、いろいろしていました。

報告は以上です。

柴田副議長

ありがとうございました。

人生の先輩が貴重な助言を新成人にされていたという。

城委員

私も着物を着た方がショールをしているのが多いので、さっきから司会をする方が全然外されないから、どうなんだろう、私が言いに行ってもいいのかなというのがすごくありましたよ、反対側に座っていますし。石田委員がこれを持っているから言ってくるわって言うてくれて。

石田委員

たすきをしていました。

城委員

会場で着物を着た新成人たちが着方等を教えていただくというのはすごくいいと思うんですね。

そのほかに、私もお花を生けて、今年、初めてだったんですけども、副実行委員長の男の子がお花を生け終わった後の片づけをす

るときに、お花よかったですって言ってくれたんです。私、初めて聞きました。そうなのって。僕、欲しいんですけど。胸のポケットチーフにしたいんですけども、つくってくださいって言われたんで、じゃあ、どれがいいって言って、そのときに選ばれたのがポケだったんですね。普通だったら、女の子たちはカスミソウとかきれいなものを選ぶんですけども、ポケって言われたんで、ポケットにしみがついたらいけないと思って、すぐ紙に包んで挿してあげたんですね。

そうしたら、もう1人男の子がまた来て、僕もつけてくださいとか言われたんで、やはりこういうところでお花を鑑賞して、見てくれて、そしてしかも自分がつけたいという感情を持ってくれたことがとてもうれしかったので、やはりこれは必要なことなんだなと思って、私も、初めて自分たちで来られたんでびっくりしました。

しかも、その男の子は少し茶髪だったので、こういう子たちはすごい感性があるんだわというのをすごい感じて、お花を生けていてよかったなって、ほんの小さなことなんですけれども、思いました。ありがとうございました。

柴田副議長

ありがとうございました。

すごい温かな雰囲気伝わってきますね。

では、ほかに何かございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

では、本日の社会教育委員の会議はこれで締めさせていただきますと思います。

お疲れさまでした。

どうもありがとうございました。